

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	女子美術大学短期大学部
設置者名	学校法人女子美術大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
造形学科	-	夜・通信	-	8	-	8	7	
		夜・通信						
専攻科	-	夜・通信	-	6	-	6	4	
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="https://www.joshi.ac.jp/publication/shugakushien">https://www.joshi.ac.jp/publication/shugakushien</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	女子美術大学短期大学部
設置者名	学校法人女子美術大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.joshi.ac.jp/about/president>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	学校法人役員	2019. 6. 1 ～2023. 5. 31	学校法人制度 ・ 運営全般
非常勤	株式会社役員	2019. 6. 1 ～2023. 5. 31	財政改革
非常勤	株式会社役員	2019. 6. 1 ～2023. 5. 31	ガバナンス改革
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	女子美術大学短期大学部
設置者名	学校法人女子美術大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画(シラバス)の作成過程 各教員に作成の手引を配付し作成・提出させ、委員会等でチェックの上、本学ホームページにて公表している。</li> <li>・授業計画の作成・公表時期 前年度末～当該年度初(履修登録手続開始前)</li> </ul>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://aa.joshibi.net/aa_web/syllabus/se0010.aspx?me=EJ&amp;opi=mt0010">https://aa.joshibi.net/aa_web/syllabus/se0010.aspx?me=EJ&amp;opi=mt0010</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施状況 各学生の学修成果に基づき、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位授与又は履修認定を実施している。</li> </ul>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

- GPA等の客観的な指標の具体的な内容（指標の算出方法など）  
履修登録した科目の成績を5段階で評価し、4～0のグレードポイントを付している。

評価	評価基準	合否	GP
S	100～90点	合格	4
A	89～80点		3
B	79～70点		2
C	69～60点		1
D	59点以下	不合格	0
F	採点対象外（出席不良等）	採点不可	0

※学期 GPA = 学期毎で履修した科目の（単位数×GP）の合計／当該学期履修登録単位数  
 ※通算 GPA = [学期毎で履修した科目の（単位数×GP）の合計]の総計／総履修登録単位数  
 ※GPA対象外科目：認定科目（単位互換等）及び卒業要件に含まれない科目（教職等）

- 客観的な指標の適切な実施状況  
あらかじめ設定した算出方法により、GPAの数値を算出している。

客観的な指標の算出方法の公表方法	<a href="https://www.joshibi.ac.jp/sites/default/files/static_page_file/2019-05/20190408_短大_履修の手引.pdf">https://www.joshibi.ac.jp/sites/default/files/static_page_file/2019-05/20190408_短大_履修の手引.pdf</a>
------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

- 卒業の認定に関する方針の具体的な内容
  - 造形学科
    - 社会人にふさわしい教養、考え方を身につけたか。
    - 美術、デザインの専門能力を修得し、広い視野と洞察力によって独自の発想を表現することができるか。
    - 自らの創作について、他者に伝えるプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につけたか。
    - 美術、デザインの活動を通して、広く社会に貢献できる能力を身につけたか。
  - 専攻科
    - 社会人にふさわしい高度な教養、考え方を身につけたか。
    - 美術、デザインの高度な専門能力を修得し、広い視野と洞察力によって独自の発想を表現することができるか。
    - 自らの創作について、他者に伝える高度なプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につけたか。
    - 美術、デザインの活動を通して、広く社会に貢献できる高度な能力を身につけたか。
- 卒業の認定に関する方針の適切な実施状況  
卒業の認定に関する方針や学生の修得単位数等を踏まえ、卒業を認定している。

卒業の認定に関する方針の公表方法	<a href="https://www.joshibi.ac.jp/sites/default/files/paragraph_file/2019-06/短大学則(20190403)_0.pdf">https://www.joshibi.ac.jp/sites/default/files/paragraph_file/2019-06/短大学則(20190403)_0.pdf</a> <a href="https://www.joshibi.ac.jp/about/philosophy/diploma">https://www.joshibi.ac.jp/about/philosophy/diploma</a>
------------------	--

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	女子美術大学短期大学部
設置者名	学校法人女子美術大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.joshibi.ac.jp/sites/default/files/paragraph_file/2019-06/学校法人女子美術大学平成30年度事業報告書.pdf">https://www.joshibi.ac.jp/sites/default/files/paragraph_file/2019-06/学校法人女子美術大学平成30年度事業報告書.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.joshibi.ac.jp/sites/default/files/paragraph_file/2019-06/学校法人女子美術大学平成30年度事業報告書.pdf">https://www.joshibi.ac.jp/sites/default/files/paragraph_file/2019-06/学校法人女子美術大学平成30年度事業報告書.pdf</a>
財産目録	<a href="https://www.joshibi.ac.jp/sites/default/files/paragraph_file/2019-06/学校法人女子美術大学平成30年度事業報告書.pdf">https://www.joshibi.ac.jp/sites/default/files/paragraph_file/2019-06/学校法人女子美術大学平成30年度事業報告書.pdf</a>
事業報告書	<a href="https://www.joshibi.ac.jp/sites/default/files/paragraph_file/2019-06/学校法人女子美術大学平成30年度事業報告書.pdf">https://www.joshibi.ac.jp/sites/default/files/paragraph_file/2019-06/学校法人女子美術大学平成30年度事業報告書.pdf</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.joshibi.ac.jp/sites/default/files/paragraph_file/2019-06/学校法人女子美術大学平成30年度事業報告書.pdf">https://www.joshibi.ac.jp/sites/default/files/paragraph_file/2019-06/学校法人女子美術大学平成30年度事業報告書.pdf</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: )	対象年度: )
公表方法: (参考) 単年度計画の実施結果のみを毎年度の事業報告書に記載し、大学ホームページで公表。 <a href="https://www.joshibi.ac.jp/sites/default/files/paragraph_file/2019-06/学校法人女子美術大学平成30年度事業報告書.pdf">https://www.joshibi.ac.jp/sites/default/files/paragraph_file/2019-06/学校法人女子美術大学平成30年度事業報告書.pdf</a>	
中長期計画(名称: 学校法人女子美術大学中期事業計画 対象年度: 平成28年度から令和元年度まで)	
公表方法: 毎年度の事業報告書に記載し、大学ホームページで公表。 <a href="https://www.joshibi.ac.jp/sites/default/files/paragraph_file/2019-06/学校法人女子美術大学平成30年度事業報告書.pdf">https://www.joshibi.ac.jp/sites/default/files/paragraph_file/2019-06/学校法人女子美術大学平成30年度事業報告書.pdf</a>	

### 3. 教育活動に係る情報

#### (1) 自己点検・評価の結果

公表方法：自己点検・評価報告書を大学ホームページで公表。

[https://www.joshi.ac.jp/sites/default/files/paragraph\\_file/2019-06/h27\\_tan\\_zikotenken\\_2.pdf](https://www.joshi.ac.jp/sites/default/files/paragraph_file/2019-06/h27_tan_zikotenken_2.pdf)

#### (2) 認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：認証評価機関から通知された評価結果を大学ホームページで公表。

[https://www.joshi.ac.jp/sites/default/files/paragraph\\_file/2019-06/tan\\_kikanbetsu\\_1.pdf](https://www.joshi.ac.jp/sites/default/files/paragraph_file/2019-06/tan_kikanbetsu_1.pdf)

### (3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

#### ①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 造形学科
教育研究上の目的 (公表方法 : <a href="https://www.joshibi.ac.jp/about/philosophy/educational">https://www.joshibi.ac.jp/about/philosophy/educational</a> ) (概要) 学生の発想の幅を広げ、実社会での応用力を持った人材を育成します。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : <a href="https://www.joshibi.ac.jp/about/philosophy/diploma">https://www.joshibi.ac.jp/about/philosophy/diploma</a> ) (概要) ・ 社会人にふさわしい教養、考え方を身につけたか。 ・ 美術、デザインの専門能力を修得し、広い視野と洞察力によって独自の発想を表現することができるか。 ・ 自らの創作について、他者に伝えるプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につけたか。 ・ 美術、デザインの活動を通して、広く社会に貢献できる能力を身につけたか。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : <a href="https://www.joshibi.ac.jp/about/philosophy/curriculum">https://www.joshibi.ac.jp/about/philosophy/curriculum</a> ) (概要) ・ 共通科目 A 群～E 群として多彩な科目を開設し、短大生としてだけでなく、社会人としても通用する思考と鋭敏な感性を身につける場として位置づけています。 主体的に科目を選択し、バランスよく学ぶことで、それらの科目の背後にある豊かで多様な学問的視点や知見を学び取り、専門教育に偏らない教養豊かな人材の育成を目指しています。 ・ 専門科目 現代の多様化する美術、デザインの表現領域を多角的に捉えたカリキュラムとなっており、本人の実技体験を通して、専門分野を絞り込むことができる選択制を取り入れています。 1 年次前期は専門科目を限定せず、美術、デザインの基礎を学ぶとともに、自己の表現の幅を広げることを目的としています。 1 年次後期からは美術コース、デザインコース(グラフィック・メディア・テキスタイル・スペース)の各領域を選択、より専門性の高い知識や技術を集中的に修得しながら、自らの発想を表現することを学びます。 2 年次後期は卒業作品を制作します。2 年間の集大成として自己の発想、表現の可能性を追求し作品として成立させること、そして社会に対して発表することを学びます。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : <a href="https://www.joshibi.ac.jp/about/philosophy/admission">https://www.joshibi.ac.jp/about/philosophy/admission</a> ) (概要) 「美術・デザインに深い興味を持ち専門家として活躍することを目指す人」「美術・デザインを通して社会に貢献し自立したいという意欲のある人」「自らの将来像を積極的に探求しようとする人」「自分を含めた社会全体をよく観察し理解しようとする姿勢をもつ人」「個性を素直に表現できる人」を求めています。

学部等名 専攻科
教育研究上の目的（公表方法： <a href="https://www.joshihi.ac.jp/about/philosophy/educational">https://www.joshihi.ac.jp/about/philosophy/educational</a> ）
<p>（概要）</p> <p>学生の発想の幅を広げ、実社会での応用力を持った人材を育成します。</p>
卒業の認定に関する方針
<p>（公表方法：<a href="https://www.joshihi.ac.jp/about/philosophy/diploma">https://www.joshihi.ac.jp/about/philosophy/diploma</a>）</p> <p>&lt;修了の認定に関する方針&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人にふさわしい<u>高度な</u>教養、考え方を身につけたか。</li> <li>・美術、デザインの<u>高度な</u>専門能力を修得し、広い視野と洞察力によって独自の発想を表現することができるか。</li> <li>・自らの創作について、他者に伝える<u>高度な</u>プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につけたか。</li> <li>・美術、デザインの活動を通して、広く社会に貢献できる<u>高度な</u>能力を身につけたか。</li> </ul>
教育課程の編成及び実施に関する方針
<p>（公表方法：<a href="https://www.joshihi.ac.jp/about/philosophy/curriculum">https://www.joshihi.ac.jp/about/philosophy/curriculum</a>）</p> <p>（概要）</p> <p>&lt;教育課程の編成及び実施に関する方針&gt;</p> <p>共通選択科目は、多彩な科目を開設しています。それらは専攻科生としてだけでなく、社会人としても通用する思考と鋭敏な感性を身につける場として位置づけています。</p> <p><u>自分の興味や関心に従って、主体的に科目を選択し、バランスよく学ぶことで、それらの科目の背後にある豊かで多様な学問的視点や知見を学び取り、専門教育に偏らない教養豊かな人材の育成を目指しています。</u></p> <p><u>必修・選択必修科目は現代の多様化する美術、デザインの表現領域を多角的に捉えたカリキュラムとなっており、本人の実技体験を通して、専門分野を絞り込むことができる必修・選択必修制を取り入れています。</u></p> <p><u>前期は美術コース、デザインコース(グラフィック・メディア・テキスタイル・スペース)の各領域を選択、より専門性の高い知識や技術を集中的に修得しながら、自らの発想を表現することを学びます。</u></p> <p><u>後期は主にそれまで培った知識、技術、表現力を基にした修了作品を制作します。修了制作では1年間の集大成として自己の発想、表現の可能性を追求し作品として成立させること、そして社会に対して発表することを学びます。</u></p>
入学者の受入れに関する方針
<p>（公表方法：<a href="https://www.joshihi.ac.jp/about/philosophy/admission">https://www.joshihi.ac.jp/about/philosophy/admission</a>）</p> <p>（概要）</p> <p>&lt;入学者の受入れに関する方針&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人にふさわしい教養、考え方を身につけた人</li> <li>・美術、デザインの専門能力を修得し、広い視野と洞察力によって独自の発想を表現することができる人</li> <li>・自らの創作について、他者に伝えるプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につけた人</li> <li>・美術、デザインの活動を通して、広く社会に貢献できる能力を身につけた人を求めています。</li> </ul>

## ②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.joshihi.ac.jp/department>



③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等名	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
造形学科	—	8人	1人	0人	5人	10人	24人
専攻科	—	8人	1人	0人	5人	10人	24人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
4人			178人				182人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： <a href="https://aa.joshihi.net/kokai_web/johokokai/JU0010.aspx?me=U5&amp;opi=mt0010">https://aa.joshihi.net/kokai_web/johokokai/JU0010.aspx?me=U5&amp;opi=mt0010</a>					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
FD委員会により策定された中期計画・年度計画に基づき、講演会、研修会、教員相互の公開授業などを実施している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
造形学科	180人	182人	101.1%	360人	358人	99%	0人	0人
専攻科	50人	24人	48.0%	—	24人	—	0人	0人
合計	230人	206人	89.6%	—	382人	—	0人	0人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
造形学科	142人 (100%)	42人 ( 29.6%)	40人 ( 28.2%)	60人 ( 42.2%)
	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
合計	142人 (100%)	42人 ( 29.6%)	40人 ( 28.2%)	60人 ( 42.2%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
造形学科	161人 (100%)	134人 (83.2%)	8人 (5.0%)	19人 (11.8%)	0人 (0%)
専攻科	18人 (100%)	17人 (94.4%)	0人 (0%)	1人 (5.6%)	0人 (0%)
合計	179人 (100%)	151人 (84.3%)	8人 (4.5%)	20人 (11.2%)	0人 (0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業計画（シラバス）の作成過程 各教員に作成の手引を配付し作成・提出させ、委員会等でチェックの上、本学ホームページにて公表している。</li> <li>・ 授業計画の作成・公表時期 前年度末～当該年度初（履修登録手続開始前）</li> <li>・ 授業計画の公表方法 ホームページアドレス：<a href="https://aa.joshiabi.net/aa_web/syllabus/se0010.aspx?me=EJ&amp;opi=mt0010">https://aa.joshiabi.net/aa_web/syllabus/se0010.aspx?me=EJ&amp;opi=mt0010</a></li> </ul>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>GPA等の客観的な指標の具体的な内容(指標の算出方法など)</li> </ul>				
履修登録した科目の成績を5段階で評価し、4~0のグレードポイントを付している。				
評価	評価基準	可否	GP	
S	100~90点	合格	4	
A	89~80点		3	
B	79~70点		2	
C	69~60点		1	
D	59点以下	不合格	0	
F	採点対象外(出席不良等)	採点不可	0	
<ul style="list-style-type: none"> <li>※学期GPA = 学期毎で履修した科目の(単位数×GP)の合計/当該学期履修登録単位数</li> <li>※通算GPA = [学期毎で履修した科目の(単位数×GP)の合計]の総計/総履修登録単位数</li> <li>※GPA対象外科目: 認定科目(単位互換等)及び卒業要件に含まれない科目(教職等)</li> </ul>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>客観的な指標の適切な実施状況</li> </ul>				
あらかじめ設定した算出方法により、GPAの数値を算出している。				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用(任意記載事項)	履修単位の登録上限(任意記載事項)
造形学科	-	62単位	有・無	42・49単位
	-	単位	有・無	単位
専攻科	-	30単位	有・無	— 単位
	-	単位	有・無	単位
GPAの活用状況(任意記載事項)		公表方法: <a href="https://www.joshi.ac.jp/sites/default/files/static_page_file/2019-05/20190408_短大_履修の手引.pdf">https://www.joshi.ac.jp/sites/default/files/static_page_file/2019-05/20190408_短大_履修の手引.pdf</a>		
学生の学修状況に係る参考情報(任意記載事項)		公表方法: 授業アンケート結果を集計・冊子化し、学内教職員と学生が閲覧できるようにしている。		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法: <https://www.joshi.ac.jp/campuslife/establishment/suginami>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
造形学科	—	1,114,000円	200,000円	410,000円	施設設備整備費、維持費
	—	円	円	円	
専攻科	—	1,114,000円	180,000円	205,000円	施設設備整備費、維持費
	—	円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 「経済支援を目的とした奨学金」と「報奨を目的とした奨学金」とに目的別に分け、多くの種類を運営している。一方、貸与型奨学金では、本学専攻科に進学予定の学生へ貸与する、「女子美術大学短期大学部専攻科貸与奨学金」がある。在学生の積極的な学習を支援し、その成果を公に称えて顕彰し、選考された者に「女子美奨励賞」「卒業制作賞」「優秀作品賞」「女子美術大学美術館賞」「女子美術大学美術館収蔵作品賞」「加藤成之記念賞」を授与している。また、特待生入学試験による特待生制度や、市中金融機関の教育ローンより低金利で借り入れられる複数の提携ローン制度の斡旋を通じて、経済的に困難な学生が入学前から学修資金の見通しが立てられるように配慮している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリア教育科目の授業の他、実践型講座によるクリエイティブ職や専門職への就職をサポート。また、資格取得サポート強化策としてIllustrator・PhotoshopなどのPC講座・検定の実施。面談スタッフ増員による学生の就職相談機会の増加。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生の身体の健康管理は、医務室が所掌している。年に1回健康診断を実施し、健康診断証明書を発行している。また、健康診断結果に応じて学生と面談を行い、学生の健康管理に役立てている。前期はほぼ週に1回、後期は月に2回、校医が出校し、学生の医療相談、健康診断後の指導を行っている。日々の怪我、体調不良による救急処置や休養、予防処置、健康相談、保健指導等は、常駐の看護師が対応している。 メンタルヘルスケアやカウンセリングは、学生相談室が担当している。月に1回精神科医が出校し、学生の相談に応じている。受付員を置いて日々の相談を受け付け、臨床心理士や精神保健福祉士がカウンセリングを行っている。必要に応じて、医療機関につないだりもする。法律を専門分野とする併設大学の兼任教員が法律問題の相談に応じているほか、一般相談でも併設大学の兼任教員が対応している。教職員向けに精神的問題を抱える学生への対応についてアドバイスするパンフレット『学生相談室ハンドブック』を作成して配布したり、助手対象の学生対応勉強会を行ったりして、精神保健の啓発に努めている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： <a href="https://www.joshi.ac.jp/publication">https://www.joshi.ac.jp/publication</a>
---

○造形学科・実務家教員担当科目（令和元年度版）

科目名	担当教員名	実務経験	実務経験と本科目の関係	単位数
基礎造形（人体デッサン）	山本雄三他	画家等	左記実務経験を活かし、解剖のテキストをもとに大事なポイントの説明する。初心者のために描画材の説明する。先達の作品を見せながら人体デッサンの魅力を伝える。様々な実技をやる中でデッサンする面白さを体験させる。	8
基礎造形（版画）	八木なぎさ他	版画家等	左記実務経験を活かし、3週間の授業の中で第1日目～第5日目に銅版画、第6日目～第11日目にリトグラフを制作する。	
基礎造形（テラコッタ）	林佐和子他	彫刻家等	左記実務経験を活かし、個々の感性をもとにモチーフを探し、それぞれの作品に適した方法で制作させる。通常の塑造とは違い、焼成を必要とするテラコッタ粘土での制作になる為、粘土の扱い方から、仕上げの着彩までを一から学び、立体造形のおもしろさを発見させる。モチーフは自然物を基本とする。	
基礎造形（陶）	関根佳代子他	陶芸作家等	左記実務経験を活かし、手びねり、板づくり等、基本的な成形方法を用いて照明器具やテーブルウェアの制作を行う。制作を通じて各種道具の使用方法を理解し、体得させる。	
基礎造形（デジタルデザインワーク）	影山緑他	グラフィックデザイナー等	左記実務経験を活かし、グラフィックデザインを制作するために必須であるコンピュータ（Mac）の操作とグラフィックソフト（Adobe Illustrator、Adobe Photoshop）の使用方法を学習させた上で、実際のデザインテーマによる課題作品を制作させる。一連のデザイン作業を体験することで、今後のデザインワークの基礎とする。	
基礎造形（イラストレーション）	佐藤真澄他	グラフィックデザイナー等	左記実務経験を活かし、様々なアナログ技法を修得しながらなるべく多くのイラストレーションを制作させる。制作した作品をデジタルデータとしてパソコンに取り込み、イラストレーションBOOKに仕上げる。	
基礎造形（ビジュアル表現）	壺谷吉也他	グラフィックデザイナー等	左記実務経験を活かし、顔をモチーフに、コラージュを作成。そのコラージュを利用して色彩表現を試みる。アナログ作業を通して、表現者としての感性を磨くとともにコンピュータソフト（IllustratorやPhotoshopなど）を活用する感覚を身につけさせる。	
基礎造形（空間デザイン表現）	後藤浩介他	空間デザイナー等	左記実務経験を活かし、エスキース模型をつくりながら、さらに空間と人体寸法の関連性を探り、人にやさしい空間とは何であるのかを考え、空間を単に「頭で考える」のではなく、「目で視ながら、手で考えていく」手法を学ばせる。音の表現手段として楽譜があるように、空間デザインの表現手段としての図面の役割を認識し、基本的な三角図法、一点透視図法を理解し、相手に伝えるプレゼンテーションを学ばせ表現させる。	
基礎造形（染）	小林信恵、竹中明子他	テキスタイルデザイナー等	左記実務経験を活かし、布を染めるための染織技法を学び、オリジナルのデザインを使って布にプリントさせる。後半の実習では、草木や花びらの天然染料を使うことで私たちの生活と染織との関わり方について触れさせる。	
基礎造形（素材と光の工作）	後藤浩介他	空間デザイナー等	左記実務経験を活かし、木、紙、素材によるモノづくりと光と影といったライティングデザインを通して、空間デザインに必要とされる透明感、空気感、そして調和といった美の基本を理解させる。異なるデザイントレーニング（工作）とライティングデザインを通して、空間感やコンセプトの表現と作品の関係を学ばせる。作品にライティングデザインを行い、撮影、最終的にポートフォリオにまとめさせる。	
基礎造形（造形発想ワークショップ）	伊勢克也他	デザイナー	左記実務経験を活かし、作品を創るという事はということなのか、デザインをするとはということなのか、ものを「みる」とはということなのかを考えさせる。作品を作る自分の身体について意識させることで、線を描く、ものを作り出す時、アイデアを考える自分自身について考えさせる。さまざまな素材に触れながら『見るコト』と『作るコト』の本質を探らせる。	
単 位 数 計				8

○専攻科・実務家教員担当科目（令和元年度版）

科目名	担当教員名	実務経験	実務経験と本科目の関係	単位数
修了制作（美術）	山本雄三、八木なぎさ、林佐和子他	画家、版画家、彫刻家等	<p>【平面】 左記実務経験を活かし、大作2点ぐらいを制作させる。版画、日本画での修了制作も可とする。自分で制作プランを立て実行することを重視し、個展、グループ展、コンクール、編入など具体的な将来へのプランを持つ様にする。</p> <p>【彫塑】 左記実務経験を活かし、制作意図に沿って大作を制作させる。学外発表等も視野に入れる様にする。</p>	6
修了制作	小林信恵、伊勢克也、伊藤雅敏、後藤浩介、壺谷吉也、佐藤真澄、影山緑他	テキスタイルデザイナー、グラフィックデザイナー、空間デザイナー等	<p>【グラフィック】 左記実務経験を活かし、学生たちに実技内容をふまえて自ら起案させ、テーマの探究、企画書の作成を経て、研究内容を深め、表現へと繋げさせる。テーマについては自由であるが、現代や未来の社会に価値を持つテーマが望ましく、かつ、根底には自らに提案があることを期待する。作品の内容を専門的に、より高い水準のものにするを目的とすると同時に、スケジュールの立案やその実行、そして効果的な調査の手法などを学ぶことも重要な目的の一つである。</p> <p>【テキスタイル】 左記実務経験を活かし、テキスタイル造形の今日的な視点から、繊維媒体の「糸」や「布」を線から面へ、面から立体へと展開させ、インテリアアプリケーションからテキスタイルアートやファイバーアートへの造形表現を完成させる。そして、この成果を学内展に留まらず、学外のギャラリーで展覧会を開催することで、社会との関わりや自己表現をする姿勢のあり方を体験させる。</p> <p>【スペース】【メディア】 左記実務経験を活かし、学生たちにこれまでの授業内容をふまえ自ら起案させ、テーマの探究・企画書の作成を経て、研究内容を深め、表現へと繋げさせる。テーマについては自由であるが、現代や未来の社会に価値を持つテーマが望ましく、かつ、根底には自らに提案があることを期待する。作品の内容を専門的に、より高い水準のものにする目的を持つと同時に、スケジュール立案やその実行、そして効果的な調査の手法などを学ぶことも重要な目的の一つである。</p>	
単 位 数 計				6